

経営課題	委員の意見	運営方針反映項目	反映内容
1-1	地活協の認知度は37.2%と低く、R4,R5のアウトカム指標は高い。実質と達成に落差があるのでは。	アウトカム指標	【指標変更】 ・地域活動協議会の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合：令和8年度末までに90.0%以上 R4:82.2% R5:89.5% ↓ ・地域特性やニーズ、課題に応じて事業を改善・創出した地域活動協議会の数：令和8年度末までに17/17地域 R5:－件
1-2	町会の新たな担い手の発掘に向け貢献したい。		【HPへの動画掲載】 町会加入促進の取り組みのひとつとして、町会等を知っていただくための動画を作成、また、子どもたちに地域・郷土愛を育んでいただくために、東淀川区に縁のある絵本動画を作成し、区のHPに掲載。 https://www.city.osaka.lg.jp/higashiyodogawa/page/0000449209.html 【町会加入促進】 任意団体が主催するイベント等で、チラシを配布する等、啓発活動を行った。
1-2	町会加入促進についてチラシ配布だけで効果があると思えない。施策を色々と検討する必要がある(町会に関心のない人が区のイベントに参加すると思えない。また町会そのものの弱体化による活動不足にあるのでは)。		
1-2	様々なイベントで町会加入促進チラシを配布するということだが、そもそも町会非加入者がイベントに参加している割合は少ないのでは。		
1-2	町会に入るメリットをアピールしきれていないのでは。SNS等でデメリットが先行している。		
1-3			
2-1	講座実施後のアンケート結果は、アウトカム指標でなくアウトプット指標ではないか。子育て応援事業の実施目的は虐待防止であれば、講座満足度での評価は再検討すべきでないか	アウトカム指標	・講座実施後アンケートは、講座の満足度を尋ねて次年度事業に活用するための指標であることから、今回見直しを行った ・講座に参加することで、子育てに対する意識を高めるとともに、子育ての相談先等情報提供を行うことにより、子育ての相談者・協力者がいない家庭を減らすことが子育て家庭の孤立化防止に寄与していると考えた
2-2	支援を必要とする子どもたちや子育て家庭を適切な関係機関につなげられた割合100%としているが、既に100%に達しているがこのままでよいのか。新たな評価指標を検討すべきでないか	アウトカム指標	こどもサポートネット事業及び保育所・幼稚園等版こどもサポートネット事業は学校や保育所・幼稚園等の気づきからはじまる事業であることから、学校や保育所・幼稚園等の立場からの評価を用いることで、より客観的な指標になると考え、現時点の指標をこれまでの指標に追加する形で設定した
2-2	アウトカム指標に課題がある。	アウトカム指標	【追加指標】 「青少年育成区民大会等でアンケートを取り、「子ども・青少年の健全育成に関する取組に新たに参加したい。又は、継続したいと思った」と回答する人の割合：80%以上」 (取組を多角的に評価することができるよう、新たにアウトカム指標として追加)
2-3	ゲストティーチャー事業の内容が定番すぎるのでは？ (令和5年度第2回本会での意見と対応方針より)	具体的取組 (学校の実情に応じた教育支援事業)	「ゲストティーチャー派遣事業」は、学校の意見等を聞きながら平成27年度から実施してきましたが、一定年数が経過する中で、学校のニーズも多様化してきたことから、現在の子どもたちの実情と課題にあった内容へ見直しを行いました。 これまでは「いのちと性の教育」「情報モラル教育」の2テーマで学校ごとに実施学年を選択していただき実施してきましたが、令和7年度以降は、各学校の課題に応じた取組となるよう、各小中学校が「児童生徒の自尊感情の向上を図ることにより、こどもの問題行動の抑制並びに心身の健やかな成長を促し、明るく楽しい学校生活が営まれている東淀川区をめざす」という本事業の事業趣旨に沿うよう、実施する講座の対象やテーマを企画・実施し、区役所が講師に対する報償金を支払うという実施方法へ変更しました。
2-3	ゲストティーチャー派遣事業の必要性についてこの事業を選択していない区内の小中学校は非常に多い。学校独自の取り組みがされており、無償の講座を実施する等している。教育予算を使う意義があるのか？ (令和6年度第1回各部会での意見と対応一覧より)		
2-3	ゲストティーチャーのカリキュラムを学校が選べるのであれば、ドラッグ、オーバードーズ、生活をしていく上での金銭の話についてを教えてくれる講師を呼べればいいと思う。 (令和6年度第1回各部会での意見と対応一覧より)		
2-3	ゲストティーチャーのカリキュラムに今風の内容を増やすべき。 (令和6年度第1回各部会での意見と対応一覧より)		
2-3	ゲストティーチャーの内容は学校で決めているのか。学校で学びたいことを言えるのか。 (令和6年度第1回各部会での意見と対応一覧より)		
3-1	アウトカム指標に課題がある。		【指標追加】 将来ビジョンの指標であるアウトカム指標はそのままにし、新たな指標を追加。 追加指標：地域福祉コーディネーターの1日あたりの相談受付平均件数が前年度実績を上回る

令和7年度東淀川区運営方針委員意見反映箇所一覧		【当日資料1 別紙】	
経営課題	委員の意見	運営方針反映項目	反映内容
3-2			
3-3			
3-4	ひがよどウォーキングマップを職場、地域、家庭で広め、お互いの健康増進に役立てたい。		【HPへ掲載】 ひがよどウォーキングマップをHPに掲載
3-4	母子手帳交付の際に東淀川区LINEのQRコードをお知らせしたらどうか。情報が届きやすくなる。		【修正】※参考資料1 参照 身近な相談先として、地域担当保健師を紹介し、育児の不安や悩みの相談に応じて切れ目ない支援を継続する。併せて、子育て情報等の情報発信を充実させるため大阪市LINE公式アカウントを周知する。
3-4	アウトカム指標に課題がある。	アウトカム指標	【指標追加】 区イベント等におけるアンケートで「検診の受診や生活習慣の改善、体力づくりなど健康増進に取り組んでいる」と回答する人の割合：令和8年度末までに90.0%以上 R4:86.7% R5:86.4%
4-1	防災の力点が避難におかれているが、本来は災害にあっても今の生活が維持できることでありそのために、「減災」に取り組むべきではないか。公助として共助、自助において減災をどうしていくかを考え実行するべきではないか。	主な戦略	【修正】 「自助・共助」と「公助」の取り組みを分けて記載 （東日本大震災においては、地震や津波によって、発災直後は本来被災者を支援すべき行政自体が被災し、行政機能が麻痺した。このような大規模広域災害の発災当初における「公助の限界」が明らかになった一方、自助・共助による「ソフトパワー」の重要性が強く認識されたことから、「自助・共助」の取組を運営方針に記載している。しかし、行政機能回復後は、「公助」の取組も機能し始めることから、「自助・共助」と「公助」の取組に関する記載を明確化した。
4-2	犯罪防止のため防犯カメラの新設が必要である。	主な戦略	【修正】 防犯カメラについて「区内の幹線道路等、街頭犯罪抑制の効果的な場所へ防犯カメラの設置、維持管理を行う。」と修正。
4-2	防犯カメラの増設が必要である。		
4-3	外国人住民の増加に対し、日本の交通ルールを学んでもらうために多言語での案内を活動の一環として行うのはどうか。		【啓発内容変更】 区役所啓発コーナー及び区民まつりなどのイベントを活用し外国人向けの啓発活動を実施している。
4-3	自転車利用適正化指導員の配置日数を増やせないか。		【日数変更】 淡路駅、上新庄駅での指導員配置日数をそれぞれ20日増やして実施予定。
4-2			
4-3	電動キックボードへの交通安全啓発も具体的取組に入れてみてはどうか。		【啓発内容変更】 警察署等と連携して、交通安全教室、区民まつりなどのイベントを活用し、電動キックボードへの交通安全啓発を組み入れた啓発活動を実施している。
5-1	区政会議運営について、議論のテーマが絞られすぎて幅広くニーズ、問題点の掘り下げができない。単純にたたき台の評価だけに終わっているのでは。	主な戦略	【追加】 ・区政会議の活性化に向け、運営の見直しに取り組む （区政会議の出席率の低下をふまえ、区政会議の運営方法の改善に取り組むことを追記）
5-1	区政会議の位置づけが不明瞭 ・現状区政会議の成果が見えない。何のために夜出てきているのかがよくわからない。 ・運営方針が本当に成果物とは思えない。		
5-1	議員のコメントは不要。時間の無駄。評論家的発言で「自分はこうやる」という発言は一切ない。彼らに期待するのは、市政を動かすことであり本来の役割を認識すべき。		【司会コメントの修正】 冒頭の議員紹介の際に、「必要な助言をすることができるとされていますのでよろしくお願いします。」と紹介していたが、その前に「区政会議の議論に資するために」というコメントを追加し、発言いただく内容を明確化した。
5-2			
5-3	取得が任意であるマイナンバーカードを利用した取組が多いのではと感じる。カードの安全性を広めていくべきではないか		【ちらしの配架】※参考資料2 参照 マイナンバーカードの安全性を周知するため、窓口サービス課の待合いに、「持ち歩いても大丈夫！マイナンバーカードの安全性」のちらしを配架した。
5-4			